

<今回>300回目 2021年8月23(月)15時~18時 第8会議室

読書は10冊目「失われた九州王朝」再読 p340、日本という国号 より

<前回>299回目(21-8-13)出席者 7名

資料(21-08-13-1)前回のまとめ(清水)

(21-08-13-2)継体天皇崩関連年次表(高山)

A 報告 コロナのデマについて、情報交換。午前中の多元の会 web、薬師寺に関する討論について紹介。①本薬師寺の礎石遺跡が藤原京に残っている。西ノ京に現在薬師寺として①の本薬師寺から移設されたとする②薬師寺の建物がある。東塔が解体修理され新知見がもたらされた。銘板に中宮の病氣平癒を祈り、大上天皇が建設したと2人の名前があることを手掛かりに通説を批判した。通説は中宮は持統婦人、大上天皇は天武。発表は藤原京は九州王朝の建設というもの。③新薬師寺は現在奈良公園の近くにある。747年建立、西の京の(本)薬師寺の薬師像は白鳳仏、新薬師寺の薬師像は天平仏というもの

B 資料は本日読み合わせる所に合わせて紹介する。紀本文に対して、国内の「或る本」に合わせたものを赤字にて記す。3年のずれが明確になる。これを見ると「或る本」の方が正しいように見える。

C 読書 平子説と喜田説

1) 誰もむつかしいので論じられなかったが、明治38年平子鐸嶺によって取り上げた。「継体以下三皇紀の錯簡を弁ず」。これに対して昭和3年喜田貞吉は「継体天皇以下三天皇位継承に関する疑問」をだした。南北朝古代版の想定である。安閑宣化にたいして、欽明朝が並行し、欽明朝に統合された。戦後林屋辰三郎によって補強されて登場した。磐井の乱が全国規模にあり、豪族や民衆が反乱したというもの。共通しているのは百済本紀の誤伝説である。坂本太郎、三品彰英、笠井倭人らも批判したが3年のずれ問題を年表作成上のずれにした。

ここで高山氏作成の資料2を見る。百済本紀に基づいた辛亥継体25年死亡を基準とした黒文字の表と国内の「或る本」に基づいた表は赤い文字の表で赤文字の方が正しいように思われるが何故書紀本文は百済本記を採用したのか、安閑宣化は「或る本」に基づいて皇統を続けている。古事記は丁未(527年継体21年)である。

2) 私の視点(古田) 日本天皇は近畿天皇家以外になしという不動の信念、観念論に覆われている。私の視点は古事記、日本書紀の記述は根本において「天皇家自身の大義名分論」に貫かれている。それは客観的史実でなく、主張の書である。その主張は「日本列島の支配者は永遠の昔から天皇家だけだ」。古事記序文の「削偽定実」も複数の言い伝え上の偽りをただすという意味ではない(先行する権力者の記録を削るという意味)

3) 百済本紀は日本書紀より150年前に成立し、しかも列島の外にあって記録されていたから日本書紀の大義名分論に縛られる必要はない。中国も8世紀(大足2年、文武2年)に天皇家を日本列島の主人公とみなした。

4) 7世紀の隋書倭国伝に「新羅、百済皆倭をして大国にして珍物多しとして、並びに之を敬仰し、恒に通使往来す」とある。この倭国は九州王朝であった。

次回日程 2021-9-10 日(金) 15時から18時 かながわ労働プラザ 第8会議室

—9-20日(月) 15時から 18 時 かながわ労働プラザ 第9 会議室

—10-8日(金) 15時から18時 かながわ労働プラザ 第8会議室